

科目名	<b>行政学 I</b>	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			法律学科	□ 必修 ■ 選択	
			学科	□ 必修 □ 選択	
英文表記 独文表記	<b>Public Administration I</b> <b>Verwaltungswissenschaft I</b>	開講年次	■ 1年 □ 2年 □ 3年 □ 4年		
		開講期間	□ 前期 ■ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	てらさこ ごう	実務家教員担当科目		取得単位	2単位
担当者名	<b>寺迫 剛</b>	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	<p>往々にして、学生の皆さんが行政を意識するのは何らかの必要や問題が生じて初めて、あるいは就職先として公務員試験を意識し始めて初めて、もしくはひょっとして、今日まで自分とは関わりのない他人事として過ごしてこられたかもしれません。</p> <p>しかし、そもそも行政とは「社会を共にし、運命を分かち合っている人々が互いに力を合わせて共通のニーズを充足し、人間としてのよりよき存在のために必要な諸条件を整えていくことを目指す集合的な営為」(片岡寛光(1990)『国民と行政』早稲田大学出版部)であることを、本講義を通じて認識し、行政(学)についての理解を深めることをテーマとします。</p>				
到達目標	<p>①行政(学)についての一般的知識を習得し、  ②日本の行政の仕組み、とりわけ政官関係、中央地方関係等について理解するとともに、  ③諸外国との比較の視点を獲得することにより、  ④行政とは、寛容性をもって人々が協働する集合的営為であり、一人一人がその構成員であるという認識を涵養することを目標とします。</p>				
授業概要	<p>行政(学)の全般的な「しくみ」について講義し、日本の行政(学)に特徴的な政官関係(論)および中央地方関係(論)について論じ、さらに諸外国の行政との比較考察にも取り組みます。</p>				
授業計画					
第1回	イントロダクション：そもそも行政(学)とは				
第2回	官僚制論①：いわゆる官僚(制)批判について ・誰がそもそも官僚(制)を批判しているのか、について理解する				
第3回	官僚制論②：そもそも官僚制/公務員制度とは ・ヴェーバーの官僚制論、について理解する				
第4回	官僚制論③：なぜ官僚(制)は批判され、それにもかかわらず必要不可欠なのか ・ヴェーバー以降の官僚制論、について理解する				
第5回	日本の公務員① ・公務員?官僚?(自治体)職員?の名称と分類、について理解する				
第6回	日本の公務員② ・公務員へのなり方と働き方(改革)、について理解する				
第7回	現代の国のかたち①：現代の行政国家 ・現代国家における行政の任務の拡大、について理解する				
第8回	現代の国のかたち②：行政国家の統制 ・二重の本人・代理人論/FF論争/公文書管理と情報公開、について理解する				
第9回	国のしくみ①：連邦制国家と単一制国家 ・ドイツの連邦制と日本の単一制の共通点と違い、について理解する				
第10回	国のしくみ②：議員内閣制と二代表制 ・日本の参院選と直選知事/ドイツの連邦参院と州首相、について理解する				
第11回	戦後日本の行政①：政官関係 ・「政官スクラム」の形成と崩壊について理解する				

第12回	戦後日本の行政②：中央地方関係 ・1990年以降の3改革（政治改革、行政改革、地方分権改革）の合流について理解する
第13回	行政と事例①：東日本大震災からの復興に向けた道のり ・復興庁を軸に制度的・機能的な取り組みについて理解する
第14回	行政と政策②：新型コロナに揺れる国と地方（創生）の現実 ・いわゆる「まち・ひと・しごと創生」政策の現状と展望について理解する
第15回	本講義のまとめ：結局のところ、行政（学）とは
第16回	定期試験
授業時間外の学習	文部科学省の大学設置基準第21条に基づき、 予習2時間：講義のテーマに関する情報に積極的に接し、疑問点および現時点での考えをまとめておく。 復習2時間：講義を踏まえつつ、レジュメ等をもとに、各自オリジナルのノート（A4版1ページ程度）をまとめる。
履修条件 受講のルール	カリキュラムの規定のとおりです。
テキスト	『行政学』西岡晋・廣川嘉裕編（文真堂、2021） 『テキストブック地方自治の論点』宇野二郎・長野基・山崎幹根（ミネルヴァ書房、2022） 『ダイバーシティ時代の行政学』縣公一郎・藤井浩司編（成文堂、2016）
参考文献・資料	『政府間関係の多国間比較』秋月謙吾・城戸英樹編（慈学社、2021） 『比較行政学入門』ザビーネ・クールマン、ヘルムート・ヴォルマン（成文堂、2021） 『Verwaltung und Verwaltungswissenschaft in Deutschland』Jörg Bogumil und Werner Jann（Springer VS, 2020） 『行政学〔新版〕』真淵勝（有斐閣、2020） 『行政学の基礎』風間規男編著、岡本三彦、中沼丈晃、上崎哉（一藝社、2019） 『日本の地方政府』曾我謙悟（中公新書、2019） 『行政学講義』金井利之（ちくま新書、2018） 『行政学』原田久（法律文化社、2016） 『行政学〔第2版〕』外山公美編（弘文堂、2016） 『はじめての行政学』伊藤正次、出雲明子、手塚洋輔（有斐閣ストゥディア、2016） 『行政学』曾我謙悟（有斐閣アルマ、2013） 『雇用連帯社会』井手英策編（岩波書店、2011） 『コレク行政学』縣公一郎・藤井浩司編（成文堂、2007） 『都市の再生を考える〈第1巻〉都市とは何か』植田和弘・西村幸夫など編（岩波書店、2005） 『行政学〔新版〕』西尾勝（有斐閣、2001） 『国民と行政』片岡寛光（早稲田大学出版部、1990）
成績評価の方法	期末試験の成績に基づきつつ、講義への参加状況も踏まえ、総合的に評価します。 ※ノースアジア大学の規定により、出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	水曜日4限および木曜日1限
成績評価基準	期末試験55%、小レポート15%、出席率を含む講義への参加度35%
実務経験及び実務を活かした授業内容	—
学生へのメッセージ	公務員を目指す人も、迷っている人も、むしろイヤな人も、誰もが楽しい講義です、 なぜなら、行政（学）が対象とするのは、私達みんなであり、 行政において最も忘れてはならない大切なことは、「誰も見捨てない」ことだからです。